

こうほう ショッキング

Vol.54

Kōhō shocking



えとう たけひろ
江頭 雄大さん

●プロフィール

36歳。美津島町雑知出身、在住。対馬高校卒業後、大分県の別府大学で歴史学を学ぶ。さまざまな職業を経て27歳で帰郷。社会福祉法人で福祉の仕事に携わり、2年前にNPO法人ハートフルサポートの設立に加わる。相談支援専門員、介護支援専門員、介護福祉士。両親との3人暮らし。

○どのようなお仕事ですか？

相談支援専門員として、障がい者の方のケアプランを立てています。障害者自立支援法が改定され、障害者総合支援法が新しく始まりました。その制度の中で、障がい者のケアプランを立てることが義務付けられたことに伴い、対馬市でもこの4月から指定事業所がその任を受けることになりました。具体的には、市の福祉課から当該者のケアプランの作成依頼が来ると、私がご自宅に訪問したり電話でお話して、希望をお伺いしながら計画を立て、サービスの事業者と連絡や調整をし、適切な福祉サービスに結びつける、という流れです。

○対馬の現状を見て取り組まれたサービスもあるそうですね。

「福祉有償連送」という有償ボランティアの移動支援サービスを発行しています。法人を立ち上げた頃、地域のためになる活動は何だろうかと考えた時、へき地の交通弱者に目が留まりました。はじめは誰でも利用できるタクシー代わりのサービスを考えたのですが、他の交通機関との兼ね合いもあって、要介護の方や障がい者の方が利用できる移動支援サービスとして九州運輸局や市の許可を受けて行っ

ているものです。今では私たち法人の主な活動のように思われているようですが、本当は、地域の方々の支え合いの気持ちから、ボランティアドライバーが増えてくれたらと思っています。そのための講習も、企画・実施しています。

○福祉の仕事に就こうと思ったきっかけは？

対馬に帰って来て自分ができる職種を性格も合わせて考えていた時に、福祉施設の求人が出ていて応募したのがきっかけです。家族にも高齢者はいませんでしたから、介護や福祉に関わるのは仕事を始めてから。介護福祉士などの資格は、仕事をしながら取得しました。福祉施設の職員として働くからには勉強にもなりますし、自分への投資にもなると思いました。障がい者の方との生活は驚きと発見の連続で、一日一日が勉強になりました。大学で歴史学を学んでまったく畑違いとも思われるんですが、僕が一番好きで勉強した人が、福祉政策に力を入れた「保科正之」だったので、もしかしたらその人の考えが影響したのかもかもしれません。

○福祉に関わって9年。つなぎ手として仕事をする中で思うことは？

福祉サービスの種類が増え、利用者が困らなくて良いような体制が整ってほしい、その一言に尽きます。福祉施設で守られる生活する方を見ていたところから、地域で生活する高齢者や障がい者の現状を見ることになって知った、サービスの格差を感じながら、今出来ることを精一杯しているところです。

○最近嬉しかったことは？

相談支援専門員としてまだまだ足りない部分もありますが、手伝ってもらいながらも一連の作業を何とか自分でやり遂げられた時は、すごく嬉しかったです。今後はいろんなケースをこなして経験を積み「江頭さんに頼んでおけば安心できる」と言ってもらえるレベルまで行きたいですね。時間はかかるかもしれませんが（笑）。

※保科正之：会津藩主。社倉制度や養老扶持、救急医療制度の創設など福祉政策を実現させたほか、江戸幕府を平和政策によって文治政治へ転換させた舵取り役として活躍。

毎回、登場してくださった方に次の方をご紹介いただくこのコーナー。次回は殿原町久田にお住まいの宮野伸枝さんです。お楽しみに。